

身近な 草・木・花 (9月)

今月は、真っ先に赤い実をつけ秋の到来を告げる木の実から紹介します。

ウメモドキ モチノキ科、落葉低木 花期；6月、果実；9～10月頃 場所；1号棟北側
落葉後に残った果実が赤く美しく、観賞用に庭木や盆栽として植えられる。
日本固有種で、樹高は2～3メートルになる。

「ウメモドキ」の名については、「葉がウメの葉に似ていることから」とするのは山溪の『樹に咲く花』、「赤く熟した実が、葉が落ちて早春まで残るその姿を紅梅の花に見立てたもの」とするのは小学館の『大人の園芸』である。HPを検索してみたら、「葉や枝ぶりが梅に似ており、また、実のつき方も小さな梅の実のように見える事から」という説もありました。さて、どれが本当やら？

ところでこの赤い実も、年末には落ちたり、小鳥に食べられたりして無くなってしまふのは残念である。



ウメモドキの実 (左) 2015 9/15 (右) 2015 9/22 木いっぱい赤い実をつける。

ハナミズキ ミズキ科、北アメリカ原産の落葉高木・中木 花期；4～5月、果実；9～10月に熟す。
場所；5号棟南側、8～9～10号棟南側

春に一斉に花開き、居住区や街中を飾ったハナミズキも、9月半ばには赤い実をつけ始め、他の樹に先駆けて次第に紅葉が始まります。

ハナミズキの実は鮮やかな紅色で、楕円形の小さな実が集まってつきます。



(左) 2015 9/12 赤い実がつくと同時に、葉も色づき始める。まだ、くすんだ色

(右) 2013 10/21 紅葉も鮮やかになってきた

ところで中央広場には、ハナミズキの仲間のヤマボウシがあります。ヤマボウシの実は右の写真のように球形です。(2016 8/24)

(熟すとオレンジ系の赤色となるようですが、その写真が撮れなかったので、下の、落果から想像してください)

花は似ているのに、実の形は全然違います。この実の形の違いについて、ホームページに面白い話が載っていました。要旨を紹介します。

ヤマボウシは東南アジア原産で、サルが実を捕食してくれる事を期待して進化した。ヤマボウシの実はオレンジ系の赤色で、甘くて、サルがつかみやすい丸い形をしている。

ハナミズキは捕食者として鳥類をねらっているため、鳥類が好きな鮮やかな紅色で、くちばしでつまみやすい形の実をしている。

自然の神秘というか、進化の妙というか、このような事を思いめぐらすのも面白いものです。



参考までに花の形を示します。

(左) ハナミズキ (2014 4/17)

(右) ヤマボウシ (2014 5/20)

ハギ マメ科、落葉低木 花期；8～10月(ミヤギノハギ) 場所；法面随所

「萩」とはマメ科ハギ属の総称として使われているが、ヤマハギの別名でもある。

万葉の時代から秋の七草として親しまれているが、ハギは草ではなく木である。

当地の萩は、ミヤギノハギを主に、マルバハギらしきものが混じっているようだ(下写真参照)。



(左) ミヤギノハギ(2013 10/21 北側階段下) (右) 中には丸みを帯びた種類も混じる(11/1 北進入路脇)

ハギの魅力は何なのだろう。そんなに華やかな花でもないし、少し離れれば見落としてしまいそうに
しなだれた枝の先にひかえめに紫紅色の蝶型の花を付けるだけ。しかし、「ハギのよさは、なんとも寂し
げなそのたたずまいであろう。迫力のないしなやかな枝、紅白に咲き分けた可憐な花、雨に打たれ、朝
露に濡れる・・・月影にゆれ動くハギも、散り敷くこぼれハギの風情にも、人びとは心を向けた。侘び、
さびの境地をこの花に求めた」と記すのは『花の風物誌』である。

こんな文章を読みながら、萩の花を眺めてみると「なるほどな」と思うのです。

ゲンノショウコ フウロソウ科 花期；9～10月 場所；東法面1号棟東方を主に、東法面随所

山野にふつうに見られる多年草。この花についてどの本にも「下痢止めの民間薬として有名で、飲む
とすぐに薬効があるから、現の証拠の名がある」と書かれているが、現在薬草として使われる場合があ
るのかどうか分からない。それはともかく花が可愛らしい。

花期は図鑑には7～10月と書かれているが、当地で見られるのは9～10月である。

生育場所は、長年見ているとかなり変化がある。昔は中央広場にも群生していたが、草取りに刈り込
まれてほとんどなくなってしまった。8号棟北側にも一時見られたが、草むらに負けたか近年は見られな
い。主な群生場所は東法面1号棟東方付近だが、これも年により消長がある。最近東法面の随所で見
られるようになった。が、今年は天候不順でどうなるか。先日(9月19日)雨の中見て回ったが、開きか
けた花を1本見かけただけ。



(左) ゲンノショウコの花 (2014 10/16) (右) 花の左の蒴果は実が入るとはじけ飛ぶ (13 10/14)

ところで花の色は、「東日本は白花、西日本は赤花」といわれるが、当地の花は赤い色である。山溪の『山溪ハンディ図鑑 野に咲く花』には日野市の白花の写真が載っている。ホームページを検索するとゲンノショウコの花の色の分布を調べている方もいるようだ。ゲンノショウコの花の色の分布は単に「東日本は白花、西日本は赤花」と割り切れるものではなく、その傾向の分布を示しながら、赤白混生している所もあるようだ。

(右) 会津で見たゲンノショウコの白花
(2016 9/11)



(文・写真；石川)